

環境に配慮した効率的な交通行動への変容を促す生活交通情報フィードバックシステムの構築に関する基礎調査

光安皓*1 市川博一*1 田村勇二*1 長谷川雅人*2 須田昌仁*2 堀口良太*3 飯島護久*3 花房比佐友*3
 吉村方男*4 佐々木卓*5 萬沙織*5 小野晋太郎*6 大口敬*6 池内克史*6
 パシフィックコンサルタンツ株式会社*1 株式会社国際情報ネット*2 株式会社アイ・トランスポート・ラボ*3
 アジア航測株式会社*4 株式会社長大*5 東京大学*6

研究背景と目的



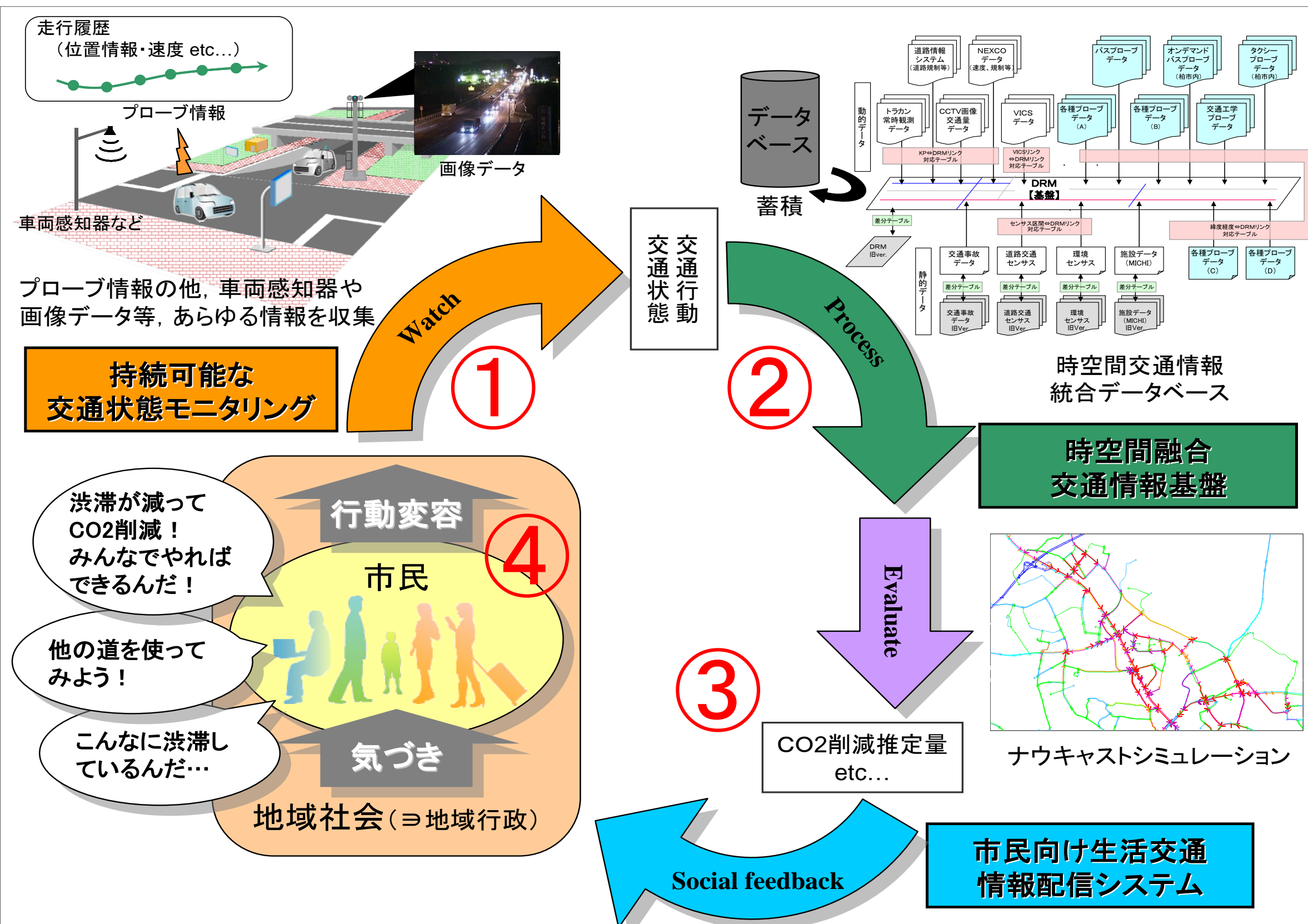
■市民にCO2発生状況の“気づき”を与え、自らの意識改革による行動変容を促すシステムを千葉県柏市をフィールドとして構築

本調査の内容

- アンケート調査により、属性に因る交通行動の傾向や地域特性の相違を分析
- 情報提供の効果が見込まれる市民層や、提供方法・提供内容を検討

研究紹介

▼生活交通情報フィードバックシステムの概要



▼市民に対して提供する情報サービス（案）

情報提供タイプ	(a)俯瞰型	(b)ナビ型	(c)フィードバック型	(d)インセンティブ付与型
情報提供画面(案)	スマートフォン例	スマートフォン例	スマートフォン例	スマートフォン例
提供する情報内容	柏市内におけるCO2発生状況を提供	現在地からの推奨移動経路・移動手段を提案	過去のトリップに対する比較経路情報を提供	CO2削減分だけインセンティブを提供
情報提供の狙い	日々のCO2発生状況を日常的に学習してもらう	CO2が発生しやすい場所を避けたルート提案を行い、移動をサポート	自身の移動によるCO2削減量や貢献度、達成度を確認してもらう	インセンティブ付与により、市民の能動的な行動変容を促す

アンケート内容

柏市及び周辺地域住民を対象に、自動車利用状況と提供する情報サービス案の受容性を調査

▼アンケート回答者の基本情報

有効回答者数	1,043人
対象者	柏市とその周辺7市町村に居住の18歳～69歳の男女
	柏市 574人
	松戸市 126人
	流山市 106人
	我孫子市 86人
	野田市 46人
	鎌ヶ谷・白井・印西市 105人

▼アンケート内容構成

質問番号	質問内容
Q1～Q7	PC、携帯電話、スマートフォンの普及状況及び利用実態調査
Q8～Q11	平休別の買い物・レジャーにおける交通選択行動調査
Q12～Q20	柏市内における駐車場利用実態調査
Q21～Q30	車、カーナビの普及状況と利用実態調査
Q31～Q42	情報提供サービスの受容性調査
Q43～Q45	環境に対する意識調査

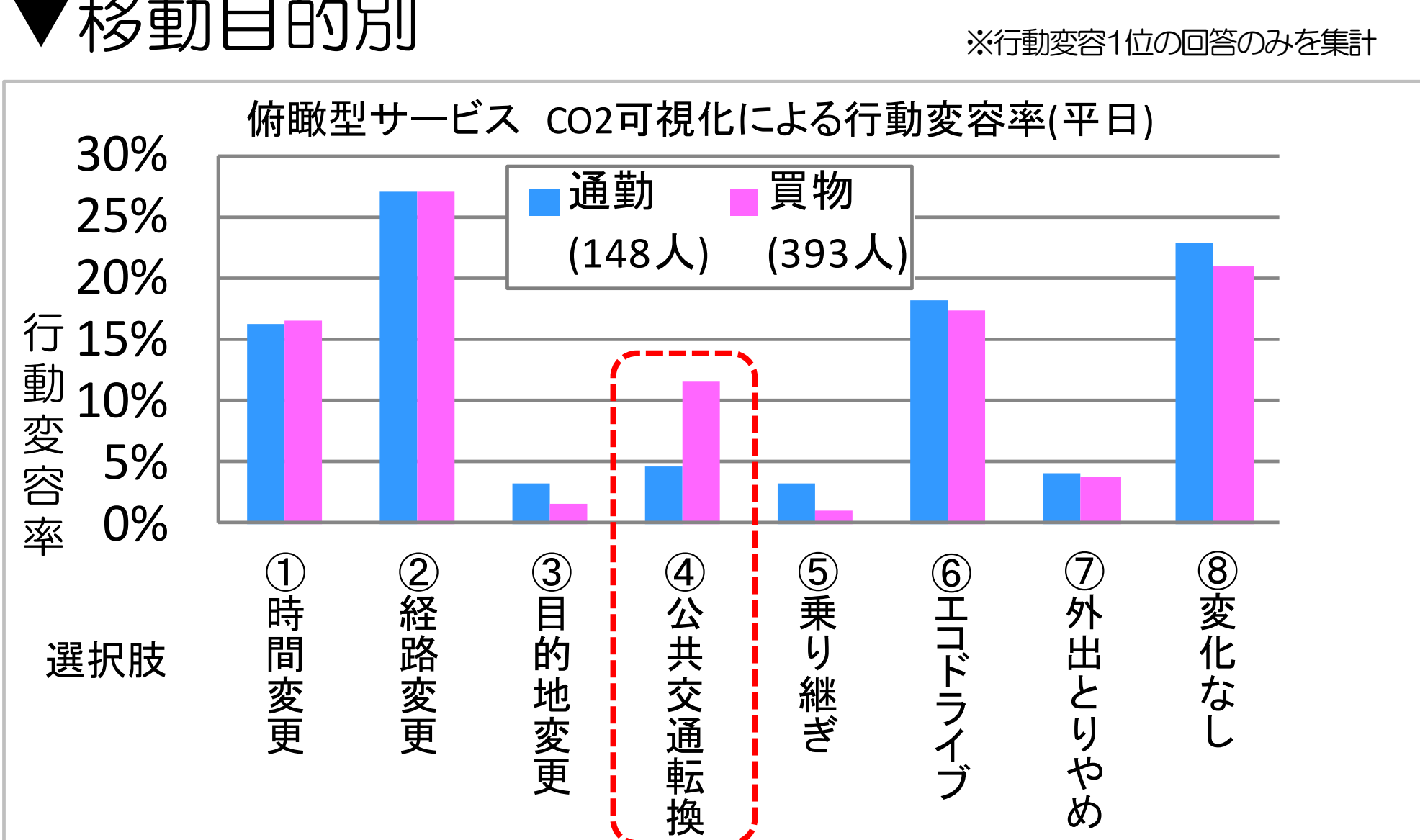
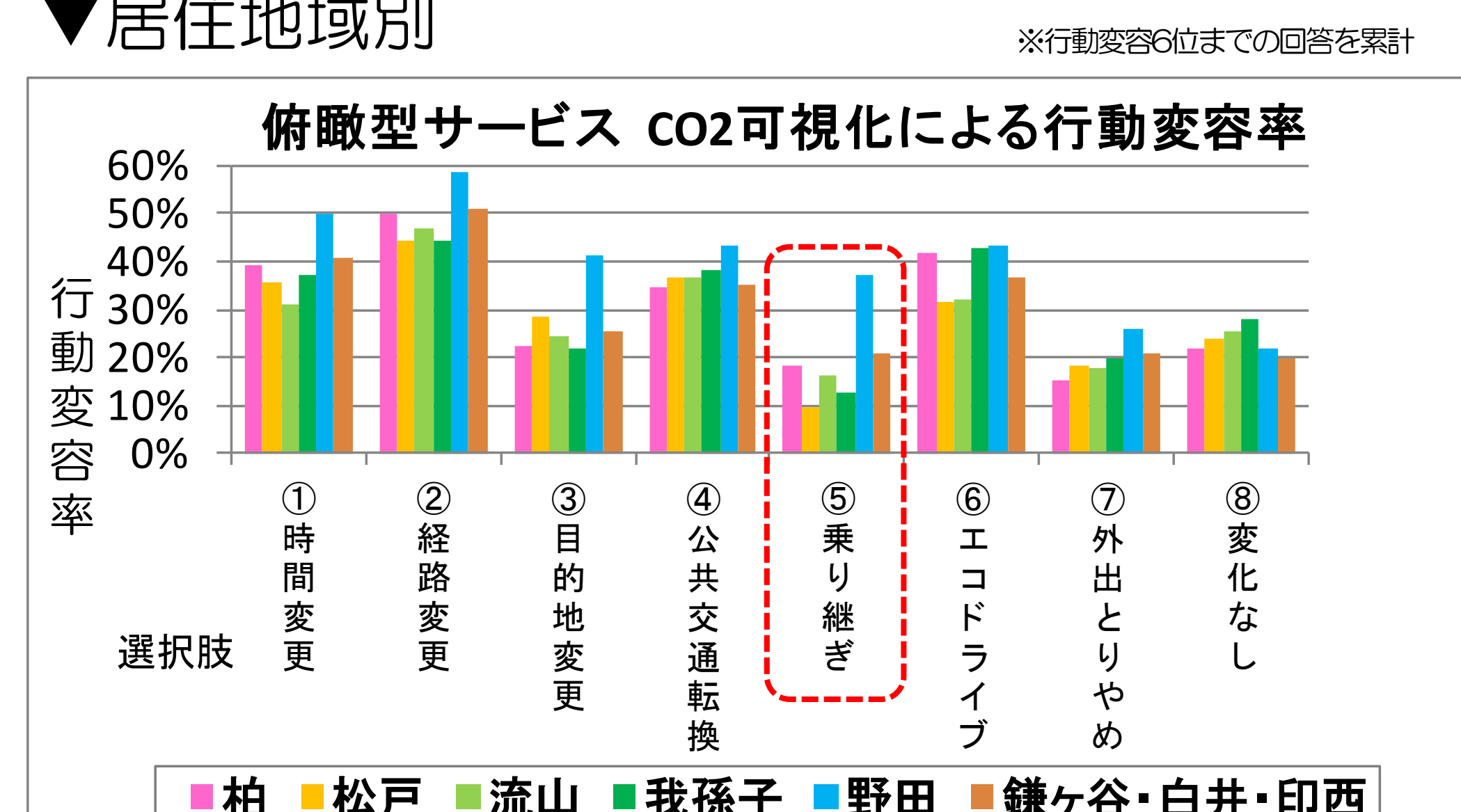
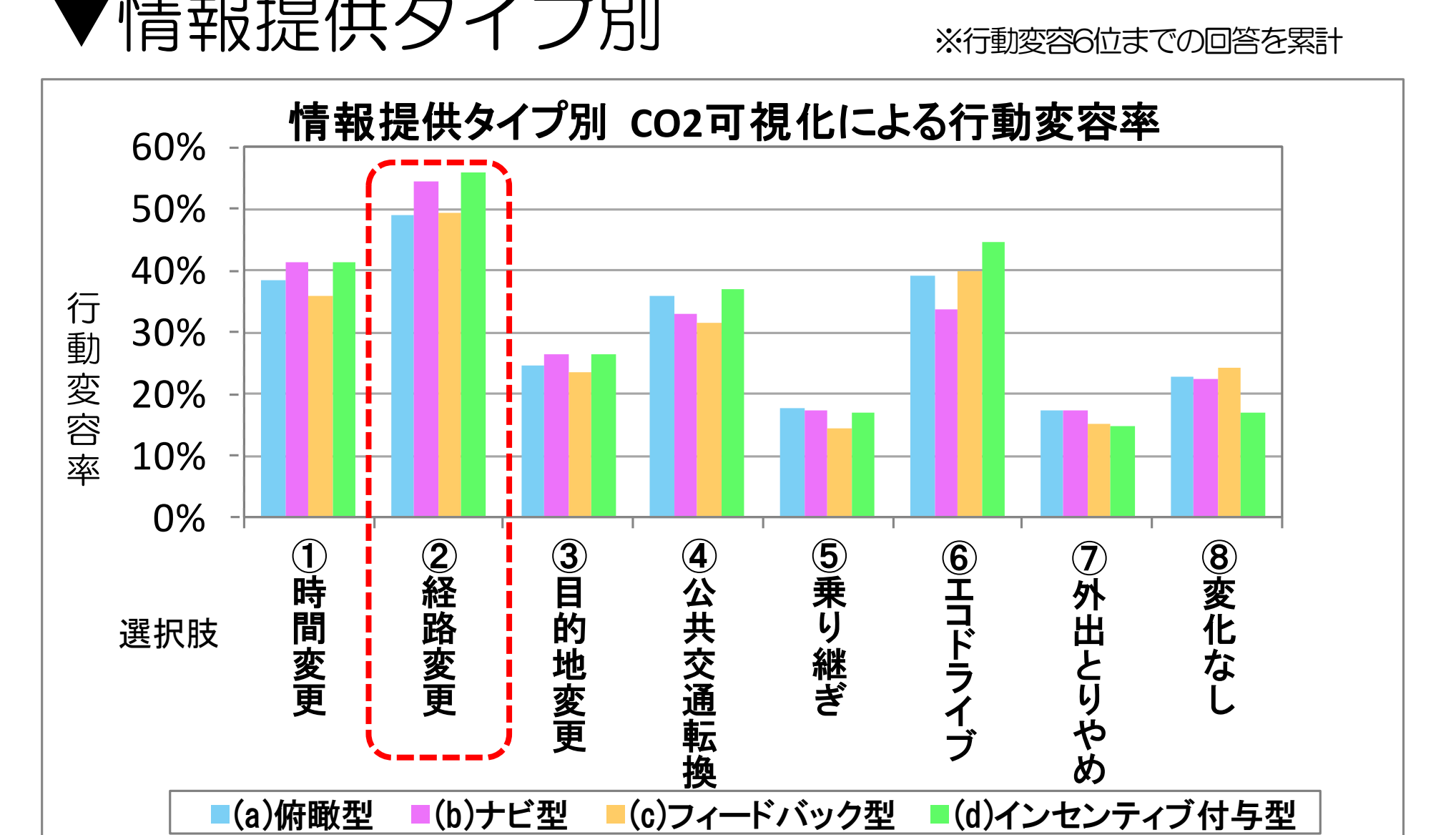
▼情報提供サービスの受容性を問う質問

目的地やそこまでの経路においてCO2排出量が多いことが分かった場合、あなたは行動を変えようと思えますか？あなたのお気持ちに近いものから順に、6つお選びください。

⇒上記を(a)～(d)の各サービスについて調査
 ※紙面の都合上(b)～(d)についての詳細結果は割愛

アンケート結果

情報提供タイプ別及びアンケート回答者の属性別に、CO2発生状況を情報提供した場合の行動変容率を集計



●経路変更の可能性が最も高い
 ●インセンティブ付与型の有効性が見られる

●地域によって差異が見られる
 例えば、“⑤乗り継ぎ”への変容率が高い野田市ではP&R等の施策と共に情報サービスを実施すると有効と考えられる。

●買物層の公共交通転換率が高い
 通勤層と比較して時間的余裕のある買物層は行動変容し易いと考えられる。

実験スケジュール

アンケート結果の反映
 ■2012年末(プレ実験)
 ⇒約20名のモニターを対象にプレ実験を実施

- 経路変更を考慮したナビ型の情報提供の充実
- インセンティブ付与型サービスの考案及び実装
- 地域性を考慮した他の施策との連携を検討
- 買物層をターゲットとした情報提供内容を検討
- 行動変容を後押しする参加型(ゲーム型)コンテンツの実装

反映
 ■2013年(本実験)
 ⇒約100名のモニターを募り本実験を実施予定
 ・ITS世界会議2013にて本実験の様子を紹介予定

連絡先

大口敬 takog@iis.u-tokyo.ac.jp